

ハンディ・ターミナル連動システム

事例② 誤出荷防止 出荷検品システム

Point 1



受注データと製品表でマッチング
誤出荷を防止

Point 2



出荷データから
売上データ自動生成

Point 3



パッケージソフトとの
連動も可能

- ハンディターミナル内で受注データと製品表でマッチングさせリアルタイムに誤出荷の確認ができます。
- ピッキングデータ(出荷データ)から売上データ自動生成
- パッケージソフトとの連動も可能です(カスタマイズが必要です)

<目的・効果>

同一品番でサイズの異なる製品は存在する為誤出荷が発生。
検品システムを導入することでスムーズな検品が行え、誤出荷の発生が少なくなった。

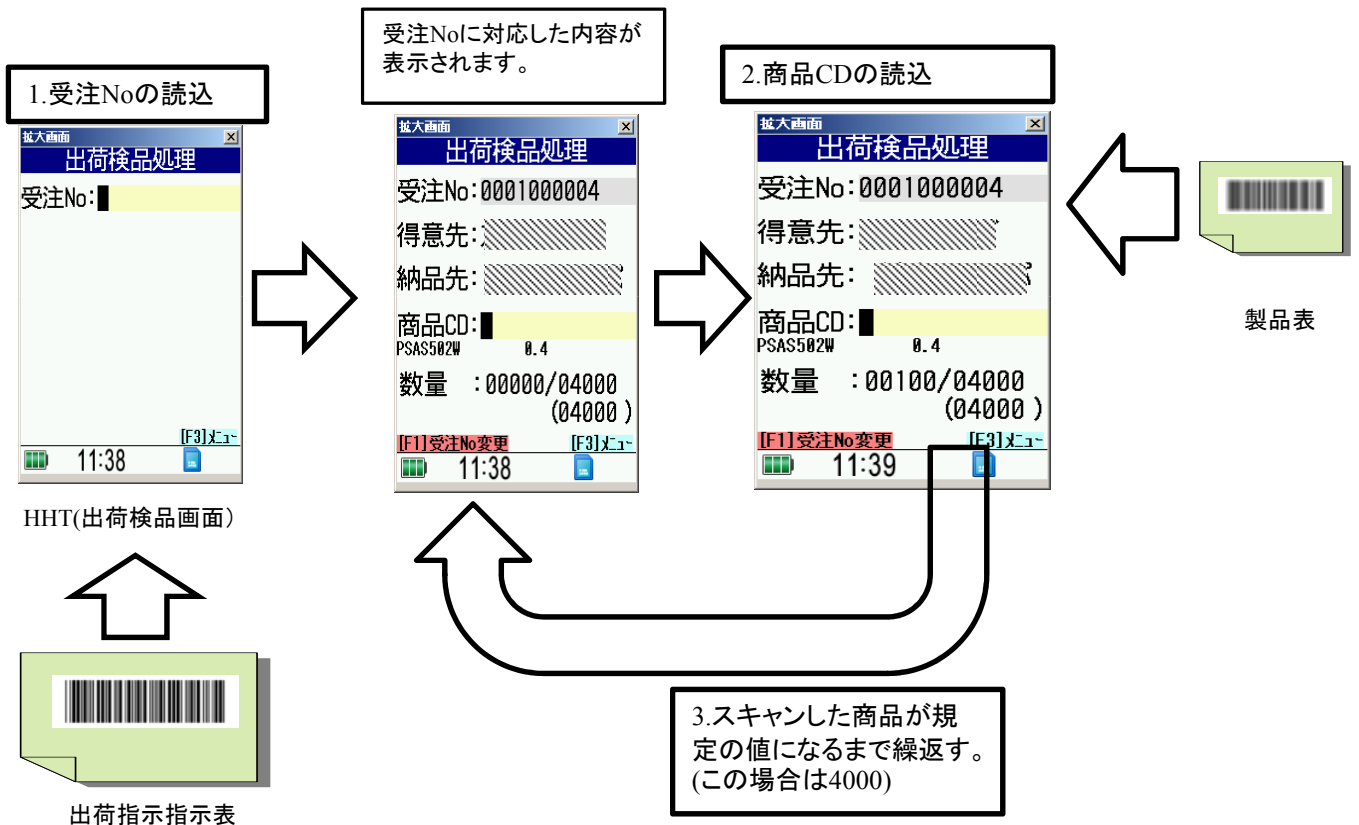
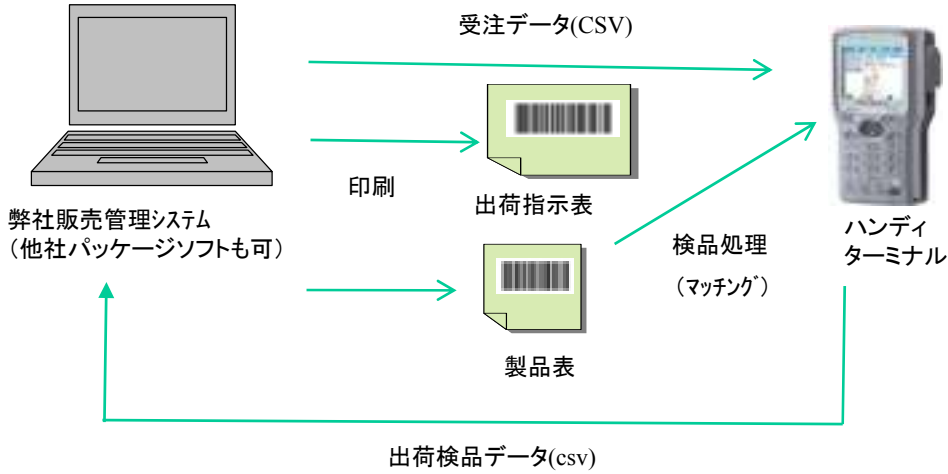
使用機器: BT-1000 (KEYENCE社製)

※ハンディターミナル内で使用するプログラムはKEYENCE社製の独自言語を用いてカスタマイズして使用しております。

※PCとハンディターミナル間は専用のクレイドルを用いて接続しております。
使用ソフト: uniPaaS VI Plus (MagicSoftwareJapan社製)

機能詳細は裏面で

出荷検品システムの概要



資料請求・お問合せ

開発元 有限会社 アドバンス情報システム
〒453-0804 名古屋市中村区黄金通2-50
RKビル4F